

令和２年度 校内研究主題計画

(1) 研究主題

互いの考えを認め高め合う子どもの育成
～算数科・道徳科を窓口にして～

(2) 主題設定の理由

本校区には歴史的文化的な遺産が多く、過去に多くの人材を社会に輩出していることから、地域の教育に対する関心や期待度も大きく、児童の学習における体験活動に対して人材支援や協力を得ることができる。

また、全校児童79名の小規模校で、校区は自然に恵まれた農村地帯であるせいか、三世代同居の家庭環境で育ち、穏やかで素直な子、基本的な生活習慣が身についている子が多い。自分から進んで新しいことに挑戦するよりも、与えられたことに対し、まじめに取り組む傾向にある。

近年は、通学区域柔軟化施策により近隣の校区より転入学する児童があるなかで学級活動や異年齢集団による縦割り活動に積極的に取り組むことで児童の人間関係は概ね良好である。しかし幼稚園から小学校卒業までの変化のない集団のなかで過ごす児童がほとんどであり、ややもすれば固定化した人間関係になりやすい。また、小規模集団であるがゆえに仲間同士のなかで自分の思いをきちんと伝えなくても相手が思いをわかってくれるといった場面も多く見られる。

さらに、両親の共働きの家庭や核家族も増え、多忙ななかで家族団らんの場や時間が減少し、自分の思いを伝える時間がない、きちんと家庭学習ができない児童も増えつつある。

本校では、このような児童の実態を踏まえ、令和２年度は『授業づくり部会』と『学級づくり部会』の２部会を持って、学力の面と心の面で子どもを支える体制をしく。そして、互いに高め合える集団の育成と、「読み解く力」を基にしながら探究的に学ぶ力を育成することを目指す。

『授業づくり部会』では、これまでの全国学力・学習状況調査において、算数科に苦手意識を抱いている児童が多い実態があったため、今年度は算数科を中心に、「主体的・対話的で深い学び」が実現される授業に向かって、研究を深める中でどのようにしたら子どもたちの「学びに向かう力」が付けられるのかを追究していく。

また『学級づくり部会』では、道徳科を中心に居場所のある学級、授業をはじめ互いの考えを認め合う学級づくりを目指す。

これらの研究を通して、基礎学力の構築にも力を入れながら、幼いころから変わらない集団の中でも日々、互いの良さを認め、帰属感のある学級集団を目指したい。

(3) 研究の内容

・授業づくり部会

算数科の授業を中心に「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる「読み解く力」の視点を踏まえた授業について、指導案作成や児童の学びの様子から研究を深める。

・学級づくり部会

道徳科の授業を中心に自分自身を振り返り、仲間の良さを見つける中で「自己存在感」「自己決定の場」「共感的人間関係」のある学級づくりについて研究を深める。

(4) 研究の方法

教員は、以下のどちらかの部会に所属をするが、互いに研修ができるよう機会を設定する。研究授業については、事前検討会、実践授業、事後研究会を行う。

全教職員で研鑽を積むために、部会に関わらず、授業参観、事後検討会は全員参加と

する。ただし、事前検討会はこの限りでない。

月	授業づくり部会	学級づくり部会
4	研究内容・方法についての共通理解	研究内容・方法についての共通理解
5	「主体的・対話的で深い学び」「読み解く力」について研修 研究授業	
6		研究授業
7	1学期の振り返り 2学期に向けて	1学期の振り返り 2学期に向けて
8	2学期に向けて自己研修	「考え議論する道徳」について研修 教育コーチング研修 2学期に向けて自己研修
9		研究授業
10	研究授業 事後研究会	研究授業 事後研究会
11	研究授業	
12	交流会 2学期の振り返り 3学期に向けて	交流会 2学期の振り返り 3学期に向けて
1	研究授業	
2	交流会	研究授業 交流会
3	1年間のまとめ	1年間のまとめ

(5) 校内研究体制の概要



(6) 過去5か年間の研究主題および指定研究歴（市町教育委員会の指定を含む。）

①平成27年度

「自分の言葉で自分の思いを表現し、考えを深めていこうとする児童の育成」
～思考力・表現力を高めるための「学習活動」の展開～

②平成28年度

「自分の言葉で自分の思いを表現し、考えを深めていこうとする児童の育成」～思考力・表現力を高めるための「学習活動」の展開～

③平成29年度

「自分の言葉で自分の思いを表現し、考えを深めていこうとする児童の育成」～「聞く力・書く力・話す力を高めるための「学習活動」の展開～

④平成30年度

「聞く力・話す力」を高めるための「話し合い」
～内容が深まる話し合い活動を進めるための「学習活動」の展開～

⑤令和元年度

「話し合う力」を高めるために
～国語科を窓口として～